

津市文化創造事業「森の劇場プロジェクト」

森からの便り No.1

2016年6月29日発行

森の劇場プロジェクトが始動

去る4月20日に津市文化創造事業「森の劇場プロジェクト」発足の説明会が開催され、同事業が立ち上がるまでの経緯、これから果たす役割（※この事業が果たす役割を参照）等について運営メンバー代表の長野多恵氏より説明が行われた。また、この活動が軌道に乗るまでの間は、3人の運営メンバーを中心に活動を進め、参加・活動するメンバーの個々の能力を繋ぎ、活用していくことを申し合わせた。その活動の定石として、堅苦しい会議とは一線を画す「井戸端会議」を月1回のペースで行うことを決めた。

第1回井戸端会議が開かれる

5月29日、記念すべき第1回井戸端会議が開かれ、この事業が果たす役割を踏まえ、「市民劇場推進チーム」「地域との連携・近隣文化施設との連携推進チーム」「子ども地域芸術教育推進チーム」の3チームに分かれて話し合いが持たれた。

市民劇場推進チームでは、森の劇場プロジェクトの「準備の年」として2016年度内にプレゼン公演、また関連企画として「つDay in 白山(仮称)」を計画。秋頃までには作品の骨組を完成させるべく準備に取りかかる。題材として「田圃」を取り上げ、田圃の恵を通して、大切なことの振り返りや、社会的な問題にも触れられる作品にしたいとしている。また、同時進行で

この事業が果たす役割

【理念】経済活動中心、効率重視の現代社会が抱える課題を念頭に置き、人と人との関わりを重視する「かつての社会」の古き良き部分を育みバランスを整える。

【目標】津市における社会包摂型劇場の育成。市民の中から地域文化芸術生活を推進できるリーダーを育成し、市民が活動していくシステムを創造し条例化する。

【計画】①市役所内の各部署に報告書に目を通して理解、見守っていただける担当者を選んでもらう。②津市独自の文化・芸術生活推進リーダー（コーディネーター）の位置づけとして、「優れた舞台活動への応援」「地域文化施設との連携」「小中学校での芸術分野の充実に関与する」の3本柱を実現する。③市民に広く利用してもらえる白山文化センターの活用。

「しらすぎ講座(仮称)」を開催、市民劇場と繋がる内容であれば相乗効果が期待できるとしている。

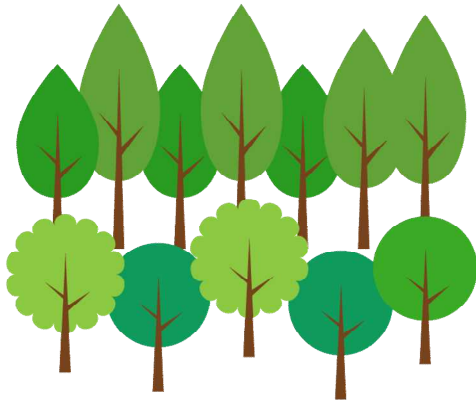
地域との連携・近隣文化施設との連携推進チームは、企業や団体・個人からの協力を得るために①一口5,000円の寄付金②ポスター、チラシ等の掲示③物品寄付の3つを挙げた。近隣文化施設との連携では①おすすめの舞台芸術や講演会の紹介・チケット割引等②広報協力③勉強会等のお知らせ、といった案が出されたが、特に①について、どういった基準で選ぶのか、良い内容のものはチケットが入手し難いといった

意見が出た。また、子どもをターゲットにした場合に起こり得る事故等への対応について慎重な意見が出された。これらの活動を幅広く周知し協力を得るためにパンフレットを作成することを決めた。

子ども地域芸術教育推進チームでは、専門分野での実施経験者の意見を交換、その実施意義を再認識した反面、学校現場に対しての働きかけの難しさも改めて感じた。そのような現状の中、いかに効率的、積極的に提案できるプログラム作りが可能か、具体的に動き出すにはもう少し時間が必要なようだ。

この月一の井戸端会議を「29日の会」と命名し、実験的な試みとして基本的に毎月29日（時間は未定）に行うこととし、会議を終えた。

(小柴信之・記)



森のプロジェクトメンバー

【運営メンバー】

代表 長野多恵（洋舞、白山町）
書記 小柴信之（合唱、阿漕町）
会計 笠松智子（一般、高茶屋）

【実行メンバー】

伊藤知子（音楽、一志町）
岡村千枝子（健康、半田）
岡本美津子（エイサー、白山町）
小川由子（一般、白山町）
奥井典生（健康、島崎町）
長田郷（能楽、豊が丘）
尾崎美恵子（教育、雲出島貫町）
加藤明子（一般、白山町）
川上明美（一般、久居）
木村和正（地域活動、白山町）
坂口礼子（茶道、高茶屋）
谷宏子（一般、白山町）
塚本桂子（茶道、久居）
寺下みどり（栄養士、白山町）
中嶋啓子（音楽、白山町）
畑中利之（教育、一志町）
前田久美子（一般、長岡町）
松尾和男（美術、一志町）
松岡夢乃（一般、白塚町）
渡瀬容子（音楽、八町）
渡部ひで子（書道、豊が丘）

【審議メンバー】

井村正勝（三重県社会福祉協議会会長、大谷町）
庄司乃ぶ代（文化・環境、垂水）
山本賢司（劇団津演、中央）

